

■マイルグランプリ（SII）（過去全 25 回の分析）

※第 1 回（平成 7 年）から第 16 回（平成 22 年）までは 3 月中旬～5 月下旬に実施

※第 17 回（平成 23 年 3 月 30 日実施予定）は東日本大震災の影響により中止

※第 18 回（平成 23 年 11 月 2 日実施）から第 26 回（令和元年）までは 10 月中旬～11 月中旬に実施

※第 8 回（平成 14 年）から第 9 回（平成 15 年）までは大井ダ 1590m で実施

※記録は令和 2 年 7 月 15 日時点

■ 1 番人気馬の成績はまずまず優秀

単勝 1 番人気馬は 9 勝、2 着 2 回、3 着 6 回で、3 着内率が 68.0%、単勝 2 番人気馬は 6 勝、2 着 4 回、3 着 3 回で、3 着内率が 52.0%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 4 回、3 着 2 回で、3 着内率が 40.0%となっている。1 番人気馬の好走率が比較的高いレースだ。

■ 人気サイドの馬が上位を占めた例も少なくない

中止となった第 17 回を除く過去 25 回のうち 19 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 6 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■ コンサートボーイ、セイスコーピオンが“連覇”を達成

マイルグランプリにおいて 2 回以上の優勝経験があるのは、第 2 回（平成 8 年）と第 3 回（平成 9 年）を制したコンサートボーイ、第 23 回（平成 28 年）と第 24 回（平成 29 年）を制したセイスコーピオンの 2 頭である。なお、いずれも 2 回連続の優勝だ。

■ 3 歳時に勝ったのは一昨年のクリスタルシルバーが初めて

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 7 勝、5 歳が 7 勝、6 歳が 6 勝、7 歳が 4 勝となっている。施行時期の変更により第 18 回（平成 23 年）から出走条件が「3 歳以上」に変わったものの、3 歳で優勝を果たしたのは現在のところ第 25 回（平成 30 年）のクリスタルシルバーのみである。

■ 牝馬と外国産馬は未だ初勝利ならず

牝馬は第 11 回（平成 17 年）のプルザトリガー、第 13 回（平成 19 年）のアウスレーゼ、第 19 回（平成 24 年）のラインジュエルがそれぞれ 2 着となったものの、現在のところ未勝利だ。また、外国産馬も第 9 回（平成 15 年）のタイキアーサーによる 4 着が最高着順で、優勝例はまだない。

■ 13 勝の大井勢を 8 勝の船橋勢が追う

所属別の勝利数を見ると、浦和所属馬が 1 勝、船橋所属馬が 8 勝、大井所属馬が 13 勝、川崎所属馬が 3 勝となっている。船橋勢ならびに大井勢が優勢だ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、石崎隆之騎手と張田京騎手が 4 勝でトップタイ。的場文男騎手が 3 勝で単独 3 位となっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「2」

調教師別の勝利数を見ると、荒山勝徳調教師、岡林光浩調教師、川島正行調教師、栗田繁調教師、高橋三郎調教師、月岡健二調教師、出川克己調教師、八木正喜調教師が 2 勝でトップタイとなっている。

■ 未勝利の馬番は 16 番のみ

枠番別の勝利数を見ると、4 枠（6 勝）が単独トップ。6 枠（5 勝）が単独 2 位、7 枠（4 勝）が単独 3 位となっている。また、馬番別の勝利数を見ると、8 番と 10 番（各 3 勝）がトップタイ。2 番、6 番、7 番、11 番、13 番、15 番が各 2 勝、16 番だけが 0 勝で、残る馬番はいずれも 1 勝ずつである。